



「滝河新聞」は滝川河川事務所が行っている取り組みや工事、イベント、地域の情報など様々な話題を取り上げていきます。

今回は、「水門等操作員技術指導会議」です。

滝川河川事務所の管内には、2月1日時点で、樋門が163箇所、樋管が11箇所、水門が2箇所あります。その全てに操作員がおり、地元の方190人と3市町に委嘱されています。

平成27年2月5日(木)13時から滝川市のたきかわ文化センターで管内の操作員に対し会議を開き、昨年夏の出水状況等の報告、操作委嘱に関する技術指導等の説明を行いました。

当日の出席者は、操作員118名、関係機関（市役所・町役場）から7名、札幌開発建設部から2名、当事務所から10名でした。

操作員の主な職務

- ①出水時に水位を監視し、河川の水位が高くなると「門扉閉操作」を行い、河川の水位が低くなると「門扉開操作」を行います。
- ②平常時に門扉開閉操作に異常がないかを中心に施設の点検を行います。



会議の様子



滝川河川事務所 鈴木所長の挨拶



【平常時】

平常時や川の水位が低いときは、樋門・樋管の扉は開いており、雨水等を川に流しています。



【閉扉】

洪水により川の水位が高くなると、川の水が樋門・樋管を通して住宅側に流れ込み（逆流）、浸水被害が発生するため、樋門・樋管の扉を閉めます。



【内水被害】

樋門・樋管の扉を閉めると、住宅側の水の行き場所がなくなり、住宅地が浸水する（内水被害）場合があります。そのため、内水被害が発生する場所には排水機場を設置したり、排水ポンプ車で排水するなどの対策を講じています。



【開扉】

川の水位が低くなり、住宅側への逆流の心配がなくなったら、樋門の扉を開け、住宅側に貯まった水を川に流します。

樋門と樋管

樋門と樋管の明確な区別はなく、機能は同じですが、一般に堤防の下を通る部分の構造が丸い管の場合で規模の比較的小さなものを樋管、箱形等の構造の場合で規模の大きなものを樋門と呼びます。

ご不明な点やご意見がありましたら、滝川河川事務所までご連絡ください。

札幌開発建設部滝川河川事務所 計画課 TEL0125-76-2211